

学校概要

創立 33 周年	学校長 石黒 裕	副校長 中野 瑞枝	学期 2 学期制	児童・生徒数 536 人
学級数 - 一般級： 15 個別支援級： 3			主な関係校： 南戸塚小、下郷小、小雀小、千秀小	

学校教育目標

- ①自ら学習力の向上に努め、自立的に学び続けていく力を伸ばします【知】
 ②自他の生命を尊重し、心身の健康を維持・向上していく力を伸ばします【徳・体】
 ③共に認め合い、参画し、自他および社会を高めていく力を伸ばします【公・開】
 [具体的な取組目標]
 ①学習の基礎・基本を身に付け、それらを基に活用・探究していく学習力を養うと共に、自立的に学び続ける意思を育みます。
 ②生徒自らが心身の健康や体力の維持・増進を心がけ、それに向けての実践意欲や振り返る姿勢を育みます。
 ③仲間や地域の人たちと協働して取り組む活動を通して、人とともに生きる大切さを理解し、その実践力を育みます。

学校の特徴

- 学校の近隣は閑静な住宅街。保護者の教育への関心は比較的高く、地域からの信頼も得つつある。
- 生徒は穏やかで、概ね学習や諸活動に熱心に取り組むことができる。
- 中学校ブロック内の小学校と連携体制が構築できており、小中一貫教育が推進されている。
- 地域の教育力の活用等の地域連携を進めたい。
- 生徒の自尊感情を高める取り組みに力を入れたい。

学校経営中期取組目標

- 「チーム南戸塚」として組織的な学校運営を行い、「誰もが・安心して・豊かに」生活できる学校づくりを目指します。
 ・生徒、保護者、地域が参画する学校評価を実施し、根拠に基づいた改善を重ねます。
 ・生命を大切にすることを第一に考えた、安心、安全な学校づくりを目指します。(体)
 ・いま求められる力を理解し、参加型の授業を実践しつつ学力向上に努めます。(知)
 ・主体的な活動を支援し、自尊感情を高めます。(徳)

小中一貫教育の取組

南戸塚中学校	ブロック：南戸塚中学校・南戸塚小学校・下郷小学校
9年間で育てる子ども像	自らの力が他の人や社会に役立っているという実感をもった、社会性を身に付けた活力ある子ども。
自校の具体的取組	① 小学校との連携・連絡を十分に取し、生徒一人ひとりの育ちを把握し、生徒理解を図る。 ② 小学校との合同研修会・研究会を開催し、共通課題を検討・解決すると共に、一貫教育の検証を図る。 ③ 自尊感情の醸成を図るために、地域との協働的な活動を取り入れる方策を研究・検討する。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学習の基礎・基本を身につけ、それらをもとに対話的に活用・探求していく学習力を培うための意思を育む。	・研究部中心に、生徒の実態を把握した根拠に基づく指導を行う。 ・授業で目指すものと「評価の仕方」を明確にし授業に臨むことと、「振り返り」をさせることで、次につながる学力の向上を目指す。
豊かな心	・公共心や規範意識、礼儀を大切にす態度の育成、責任ある行動の実践化を図る。 ・全教育活動を通して、人権尊重の精神の育成に努める。	・決められた規則を目に見える形にし、遵守と規則を守ることの大切さを意識付け、その振り返りを行わせる。 ・生徒会活動として行っているあいさつ運動意識づけ、職員から積極的にあいさつを行う。 ・生徒の実態に合わせた道徳教育を実践する。 ・道徳研修会を実施する。
健やかな体	・運動の楽しさを知り、生涯にわたって運動に親しむ能力を育成する。 ・健康・安全への適切な理解と健康維持、危機回避などの能力を育成する。	・体育の授業、部活動での取り組みを通じ、体力・持久力の向上を図る。 ・家庭科、保健委員会、PTAと連携し、健康な体づくりのための食育を推進する。
安全管理 (生徒の安全確保)	・自主的に安全点検を行い、安全に対する意識が高められるようにする。 ・全職員が危機意識を持てるような研修を実施する。	・生徒による安全点検を定期的に行い、危険箇所を把握し、職員とともに安全に関する意識を高める。 また安全で快適な学校生活を送れるよう、学習環境を整備する。 ・災害時や事故発生時にすべての職員が自主的に動き対処できるよう研修を進める。 ・地区別集会の充実を図り、引き取りの円滑な運営を目指す。
学習指導 (授業改善)	・授業改善を進めるための呼びかけや研修を行い、推進する。 ・生徒の主体的で対話的な学習の展開するための方法について考え、研究を進める。	・学力学習状況調査の結果を分析し、分析結果に基づく授業改善を進めてもらう。 ・互いの授業を多く見学しあい、共に振り返りをしながら、より良い授業づくりを目指す。 ・学習指導要領の分析のための研修会を開く。
生徒指導 (情報共有と支援)	・生徒と教師、保護者と教師との相互の信頼関係を築く。 ・基本的な生活習慣の定着を図る指導を行う。 ・自他及び社会を高めていく力を伸ばす。	・生徒たちの輪、会話に入っていく。 ・特別支援を要する生徒や不登校生徒、保護者との相談活動を充実させる。 ・あいさつ運動やチャイム着席を励行。 ・巡回の徹底。 ・生徒への課題・目標の提示。 ・生徒の良い言動を積極的に見つけ、褒めることで、自尊感情の向上を図る。
特活指導 (主体的な生徒活動)	・より良い学級・学校づくりのために、学級会や委員会に参画し、さまざまな課題を主体的に解決しようとする態度を育てる。 ・実践的な活動を通して、お互いに認め合える豊かな人間関係を育む。	・学級会、委員会活動、行事など学校の諸活動に参画し、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。そのために、全校集会や放送などを利用し、各委員会、行事などの目標や活動内容を確実かつ効果的に全校に伝えるとともに、より多くの生徒が活躍できる場面をつくる。また、学級会、委員会活動などでより良い生活や活動をつくるために、話し合い活動を取り入れる。 ・「いつでも、どこでも、誰にでも」自らあいさつ・返事が適切にできる生徒を育てる。
人材育成 組織運営	・部門内業務の精選、統廃合を行い、組織機能の見える化を図る。 ・部門統括者による人材育成を図る。 ・校内研修を充実させる。	・部門の目標を明確にし、年2回の振り返りを組織の修正に活かす。 ・部門会議開催前に議題を明確にし会議に臨む。 ・スタンドミーティング等を活用し、会議時間を短縮し、生徒と向き合う時間を多くする。 ・研究授業、校内研修、メンター研修等を意図的につなげ教師力の向上を目指す。
いじめ防止	・生徒理解の推進 ・生徒指導體制の見直し ・保護者との信頼関係の構築	・生徒アンケートを定期的の実施し(年4回)、教育相談の場において、傾聴・受容的姿勢で臨む。 ・生徒指導と事案対応の区別を明確にし、基本的な生徒とのかかわり方を見直す。 ・家庭訪問、懇談会での保護者への対応を重視し、保護者の考えや意見等の発信を丁寧に聞き取り、全職員で共有する。